



自治連だより

第26号



鳥取市自治連合会
会長 南部 敏

新年
おめでとうございませす



鳥取市自治連合会会員皆様におかれましては、ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

旧年中は各地区、各地域の自治会活動にご尽力いただき誠にありがとうございました。本年は天皇陛下の譲位に伴い皇太子さまが即位される慶賀の年、世界平和と良き時代がつづくことを願いたいと思います。

さて、昨年は自然災害の恐怖と、災害の発生は予測がつかない事を思わされた一方、生活面に於いても地方で生活する我々に、好景気の循環を実感するといった状況はまだ見えてこない一年であったのではないかと思います。

少子高齢化、高齢者人口の増加、又、社会が多様化してきた今こそ、皆で話し、協力し助け合っていく、自治組織の重要性が求められているのではないかと思います。今、連合会は自治会加入世帯増強を目標としており、昨年九月二十八日には鳥取県宅地建物取引業協会東部支部・鳥取市・鳥取市自治連合会三者による「鳥取市における自治会への加入促進に関する協定書」を締結しました。

今後、行政とも相協力し魅力あるまちづくりを目指し、頑張っていきたいと考えております。ひきつづき会員皆様の変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

修立地区

持続可能な
まちづくりは
共助がポイント

修立地区自治連合会
会長 西村 孝一

修立地区は久松山の真南に位置し、橋谿や天神川の自然、文部省唱歌の多くを作曲した岡野貞一、自由律俳人 尾崎放哉、他多くの偉人が育った、文化の香りいっぱいのもちです。神社やお寺と古くからの街並みが残る御弓町、中町一区、立川町一・二丁目、吉方町一丁目・二丁目。しかし更に南側の吉方温泉四丁目、立川町五丁目・二・三区、南吉方三丁目には、今、大規模店の建設、住宅地の造成など再開の波が押し寄せています。

今年六月に各町内会長さん百人からアンケート回答を得ました。「私たちの町は住みやすいですか？」。

「まあまあ住みやすい」以上の好回答が九十四人。この数は、まちづくり協議会発足直後の回答から六%改善しており、諸活動の成果とも言えます。住みやすい理由のベス



天神川 桜並木へのソーラー行灯飾り

ト三は「自然環境」、「利便性」に加え、今回急伸長しトップになったのは「住民の協力があつた」で、正に「共助」そのものです。

皆の願いはハード面からソフト面へ変化していると言えます。

近年で定着した小学校との合同運動会、総合文化祭。今年の新規事業、天神川桜並木へのソーラー行灯設置とこども対象の地引網体験。そして昔から受け継がれる三神社のお祭り麒麟獅子舞など、文化の継承



稻荷神社例大祭

と新しい賑わいを通じて、幅広い年齢層の皆さんが「誘い合い集う」、先ず顔見知りになること。そのことが「共助」のきっかけをつくるものと思っております。

再開発の一方で住民の高齢化と人口減少も急激に進んでいます。持続が可能な地域づくりを目標に、新しい宅地へ来られる住民の方々、商業各店の皆さんと一緒に更に住みよい地域を目指していきたいと考えています。

中ノ郷地区

伝統文化を軸に
展開するまちづくり

中ノ郷ふるさとづくり協議会
会長 下澤 理如

★平成二十一年に設立して今年で十年。中ノ郷地区は千四百三十二世帯三千八百九十二人が暮らし、自治会の加入率は八十・四％です。

★地域づくりの目標を「地域の誇りをもち、人が輝く活気あふれるまち」とし三つの具体的目標を掲げている。**①**伝統文化の継承・発展・創造 **②**健康・安全・福祉の充実 **③**世代間交流の推進。

★協議会には五つの部会がある。「運動会」「納涼まつり」「しゃんしゃん祭中ノ郷連」「敬老会」「中ノ郷まつり」「清掃活動」を主催し、広報紙を発行している。
★協議会の構成は十六団体であり、役員は各団团长等



納涼まつり

約三十名である。年三回各団团长が集まって「代表者会議」を開催している。これは中ノ郷地区の情報交換が主な目的である。各団体の似たような事業を一括することで事業規模を大きくし、参加していた多くの方を多くする効果を狙っている。

また、事業の周知を目的に各団体の事業の日程と内容を載せた「日程連絡版」を発行している。即ち各団体の横串の役目も協議会に持たせている。

★協議会の大きな事業は担当各部会で協議し、全員が構成する実行委員会に諮って事業の詳細を決定している。春の運動会は小学校との合同開催で学校と地域が交流し、夏の納涼まつりでは地区内外から千二百人が集まる大きなイベントとなった。しゃんしゃん祭中ノ郷連は今年二十回目に参加となった。小学生・中学生・大人で構成する連であり、ここに世代間の交流が生まれている。毎



摩尼寺

年開催している敬老会はおおそかな雰囲気が進められていくことが特徴。秋の中ノ郷まつりでは沢山の絵画等の作品の展示、伝統芸能の発表会には公民館の教室等の発表と招聘団体の演技で伝統芸能への理解を深めている。十四年続く福引き大会は四百人が集まる。

★年度末にはアンケート調査を行い、皆さんのご意見をいただき次年度の企画に活かしてゆくシステムが出来上がっている。

★中ノ郷地区には覚寺に摩尼山・摩尼寺が円護寺には吉川経家公の墓所があり、各々覚寺や円護寺の方々が大事に管理されている歴史文化遺産が存在する。この遺産を中ノ郷に住んでいる方々は認識をし、盛り上げてゆく気運を醸成してゆくことも協議会の使命である。

三者協定締結式概要

平成三十年九月二十八日鳥取市役所において鳥取市自治連合会、鳥取県宅地建物取引業者協会東部支部、鳥取市の三者が「鳥取市における自治会への加入促進に関する協定」を締結しました。

出席者は深澤鳥取市長及び公益社団法人鳥取県宅地建物取引業者協会 会長 壹岐昇一氏、東部支部長 杉本美智子氏、鳥取市自治連合会からは南部会長ほか七名の出席のもと、締結式が行われました。

少子高齢化・核家族化が背景にある中、自治会加入率は二〇一八年四月末現在六五・九％にとどまり、年々減少傾向にある状況です。この協定により、住宅の販売や新たな賃貸契約の際に仲介する不動産業者からも自治会加入の推奨を行ってもらえるようになりました。

連合会は各地区自治会・町内会へ啓発チラシ等を提供し、鳥取市は三者間の調整役も担いながら、ますます住民

の自治会加入を促進し、自治会活動の必要性を呼び掛けていく事としています。

自治会は、親睦交流による「人を知る」、環境の整備・維持管理で「人を支える」、防災・避難で「人を守る」、三つの大きな活動をしており、皆が助け合う「共助」の役割が大変重要になっています。そこに自治会の果たす大きな役割があります。いつまでも住み続けられるまちであるために三者で連携し加入促進に努めていきたいと思います。



鳥取市における自治会への加入促進に関する協定 締結式



見守り隊

安全・環境部会は地域住民の安全を目指して住民見守り隊を結成し、小学生の通学時の見守り・声掛け等を隊

〈活動状況〉

地域伝統芸能などに触れることで地域への誇りや愛着心を育むと共に、活気に満ちた地域づくりを行い、次世代に伝えます。また、スポーツを通して、交流・ふれあいの場を設け地域住民の健康・体力の増進を図ります。



いきいき社むらまつり

その他にも「いきいき社むらまつり」や地区運動会など地域活性化につながる事業を実施しています。

健康・福祉部会はサロンを月一回開催しており、毎回地域の多くの人で賑わっています。

「洗足山登山会（せんぞくざん標高七四六m）」を実施しています。下山後は公民館で恒例の「千賊鍋」を参加者全員で囲み、交流を深めています。

また、平成二十三〜二十五年に掛け地域内に設置した有害鳥獣侵入防止柵の維持管理なども行いました。

用瀬地区

「安心安全なむらづくりをめざして」

いきいき社まちづくり協議会
会長 西川 功美

社地区は鳥取市南部地域用瀬町の南部に位置しています。地区の世帯数は三八〇世帯です。協議会の組織は調査・広報部会、安全・環境部会、健康・福祉部会、文化・スポーツ部会、少年部会で構成され、活動拠点は社地区公民館です。

〈コミュニティ計画〉

〇年間を通して、活動のための調査・情報収集を行い、広報誌等で地域住民に対して広く広報活動を行います。また、定期的に事業の見直しを行います。

〇地域防災の充実を図り、安心安全なむらづくりをめざします。また、環境問題に対し、各自の身近なところで環境美化や地球環境の保全に取り組みます。

〇社地区が美しく、住民が健康で安心して暮らせる安住の地となるようなむらづくりを進めます。

平成30年度 町内会長研修会

平成30年度の町内会長研修会は、鳥取保護観察所の長谷正彦所長を講師にお迎えし、「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」～更生保護とは～の演題でお話いただきました。

これまで、「笑い」「人の才能を伸ばす指導力」等、一度聞いてみたいと思うテーマでしたが、正直あまり関心もなく、ご講演を伺った後も会長さん方は、内容について特に話す事も無く真面目な顔で帰って行かれました。

自分も申し訳ない事ながら、特に感想もなかったのですが、後日ある刑務官の方から、「犯罪を犯す人の中には我々の常識とは全く違う感覚を持っている人がいる。何で人の金を取ったんだ」と問い詰めると「だって自分の金を使うと減るから」と平然と答えたと言いました。

通常とは全く違った常識を持った人を、何度裏

切られても見捨てず、正しい考え方が出来るように寄り添ってゆく、生半可な気持ちで出来る仕事じゃないなと思いました。

多くの人達と同調出来る心を持てる環境で育ったことに感謝の気持ちが湧きました。

日々の報道で「ひどい人間がいるものだ」と思える我々はどれだけ幸せか、又そういう人達に寄り添う人もいるんだ、と気付かせていただいた素晴らしい研修でした。

残念ながらもすぐに手助けは出来ないと思いますが、保護司の方の役割を理解させていただきました。（文責 中嶋 大地）



豊実地区

**緑豊かで魅力ある
住みよいまちづくり**

豊実地区自治会
会長 谷口真澄

豊実地区は、千代川水系野坂川中流域に立見の山と、大塚・野坂・大楠の山に囲まれた、文字どおりの緑豊かで実り多いのどかな田園地帯です。山陰地方でも最大とされる前方後円墳という貴重な遺産があり、立見峠のおとんじよろうぎつねや、大満峠の白てぬぐいなどの民話の里でもあります。

鳥取西道路の完成が間近となり、地区内にある鳥取西インターによって、地域の環境も変化してきます。地域が抱える課題・問題を整理して、豊実地区の良さを再発見し、より魅力ある地域として、発展するよう取り組んでいきます。

まちづくり協議会では、住みよいまち豊実の願いのもとに、五つの専門部会で目標を計画し、実践、実現につなげていきます。この専門部会の一つの環境美化では、地区の交流の場として不可欠なもの

なっている、芝生化された豊実グラウンドの管理に力を注いでいます。九年目となるこの芝生の管理も、水やり、芝刈り、肥料まき、冬芝の種まきなど地区住民の協力なしではできません。六月の地区運動会、夏のキャンプ大会、秋の地区まつりと、豊実地区の事業に、この緑豊かな芝生の整備・管理を心がけていきます。

豊実地区として、地区の活性化、利便性を高め、子や孫の世代が安心して住み続けられるような地域づくりを進めていきます。

醇風地区

「まちづくり協議会」の活動について

醇風地区まちづくり協議会
会長 細田利行

醇風地区まちづくり協議会は、平成二十一年三月二十七日に設立総会を開催し、活動を開始しました。

本協議会は、自治連合会を中核として、十五の各種団体が構成されています。発足当初のアンケート調査をもとに、醇風地区の地域課題を解

決するために四つの専門部会
設け活動を展開しています。

総務部

「みんなが参加し、強い絆で結ばれるまちづくり」

地域挙げての「ふれあいまつり」「防災訓練」「醇風夜ざくら道路」を企画・実施しています。地区の三大自然として定着し、近隣地区にも知られるものとなってきています。

安全・安心・環境部

「安全・安心で美しい環境のまちづくり」

地域の防災力向上のため、防災リーダーの育成、町内会長と防災リーダーの研修に力を入れていきます。

防災訓練の充実にも力点を置いていきます。避難所開設、避難所生活体験など、実生活に対応できる内容にしていきたいとも考えています。

夏季休業中には土曜夜市の見回りを、日常の児童、生徒の安全確保、健全育成のために、地域を挙げて登下校時の見守り活動・交通安全パトロールにも力を入れているところ です。

福祉・健康部

「健康増進と

支え合うまちづくり」
地域の健康づくりと、支え

合いの活動を推進するため
に「桜の下を歩こう会」「ふれあいの旅」「運動能力測定」を開催しています。障がいのある無し、年齢が高い若いに関わらず、誰もが参加し、思いやりの気持ちを持ち、支え合っていく、住みよい地域づくりを進めていきます。

ふれあい・人づくり部

「豊かなふれあいと

地域に誇りを持つ人づくり」
「醇風夜ざくら道路」を通して醇風小学校児童や保育園児、さらには地域の方々のつながり・絆を深め、心豊か



《ふれあいの旅》
車いす利用者も参加し、絆づくり



《醇風夜ざくら道路》
桜土手を彩る和紙灯りと川柳作品のボンポリ

で温かい地域社会の構築を目指しています。

地域の宝であり、市民の憩いの場である袋川の桜土手を醇風小学校全児童の絵（一～四年生）と川柳作品（五～六年生）をボンポリにし、夜間点灯して彩ります。また、地域の方々の制作による和紙灯りも満開の桜をさらに美しいものにしていきます。

《終わりに》

まちづくり協議会の活動は定着してきた半面、発足当初からの役員が継続して活動の中核を担っていることもあり、マンネリ化、停滞感が指摘されているのも事実です。

本年度はその打破を含めて、アンケート調査を実施し、コミュニティ計画を改定することとしています。

平成30年度

三市姉妹交流会報告

江戸時代の池田家の国替えなどで歴史的に深い関係で結ばれている鳥取、岡山、姫路の3市は、平成19年2月「姫路市、岡山市及び鳥取市の連携・交流に関する協定書」の調印後交流が深まり、以降3市の自治連合会（岡山市連合町内会・鳥取市自治連合会、姫路市連合自治会）が持ち回りで姉妹交流会を開催し、各自治会で取り組んでいる諸活動や課題などについて意見交換を行っている。



30年度の交流会は、9月20日、姫路市のニューサンピア姫路ゆめさきで、3市から64人が参加して行われた。大野幸一（姫路市）、久世英一（岡山市）、南部敏（鳥取市）各会長のあいさつ、石見利勝姫路市長の祝辞の後、岡山市の光岡久志常務理事が「平成30年7月豪雨災害について・砂川堤防の決壊」、鳥取市の下澤理如副会長が「加入促進活動」、姫路市の大野幸一会長が「世界遺産姫路城マラソン2018」についてそれぞれ

意見発表を行った。

光岡氏は、災害復旧に向けてボランティア活動に助けられたことを強調、下澤氏は、町内会は住みよい環境づくりを担っていることを地域住民に訴えることの重要性、大野氏は、参加ランナーにとって励みやおもてなしとなる沿道の応援の大切さなど発表され、それぞれの意見に対する意見交換が行われた。

終了後、姫路科学館で館内展示物やプラネタリウムを見学した。（文責 山添英明）

若葉台地区

みんなの顔がみえる まち・若葉台

若葉台地区まちづくり協議会
会長 坂本正夫

若葉台地区は、生活、生産、教育、文化などの複合的な機能をもつ鳥取新都市として、整備され、平成元年八月のまちづくり以来、今年で三十年が経過しました。

現在、九町内会、一、六七〇世帯、四、六九三人（九月三十日現在）が生活する街へと発展してまいりました。

この間、平成二十年には、住民と行政が共に助け合い、地域の身近な課題を解決しながら、住みよく心豊かな地域社会を築くことを目的に、地区自治会を始めとする十三の団体で構成する「若葉台地区まちづくり協議会」を設立いたしました。

まちづくり協議会では、『みんなの顔がみえるまち・若葉台』をメインテーマとして、若葉台が目指す基本計画を策定し、地域の課題解決への活動を展開することとしました。現在の活動内容としては、



若葉台地区ふるさとまつり

- ① 組織内に四つの部を編成し、総務部では、見回りパトロール、講演会、花いっぱい運動、道路愛称看板作り、WAKABADA A I だよりの発行
- ② 環境部では、鳥取市道アダプト活動、多目的広場の管理
- ③ 福祉部では、若葉台地区ふるさと祭り、高齢者を対象とした「ふれあい事業」
- ④ 健康部では、体育事業、レクリエーション事業、クリスマスリユニジョンなどで、地区住民と役員が一体となり手作りを基本に、年間を通して各事業に取り組んでいます。

まちづくりから三十年が経過しましたが、我がまちはニュータウンのため、昔ながらの歴史や伝統行事がありません。自然の豊かさや四季の風景、人々のふれあいを盛り込むとともに、テンポの良い自然と口ずさめる曲ができ上がりました。併せて、曲に合わせた踊りの振付や若竹で作った鳴子を地区の方々に考案していただき、子どもからお年寄りまで全ての人が踊れる、手づくりの「若葉台ふるさと音頭」が完成しました。



アダプト活動

賀露地区

皆と築こう、
輝く郷里を

賀露町自治会
会長 深澤修一

鳥取砂丘コナン空港開港から、一昨年で丁度半世紀をむかえました。昨年度は鳥取砂丘コナン空港と鳥取港、二つの港を直結する県道空港賀露線(愛称かっこ空港ロード)の開通があり、まさに将来に向かつてのスタートが始まりました。

環境を整えると同時に、自治会の活動も活性化をいかねばなりません。賀露では特に力を入れて取り組んでいる活動に防災活動があり

ます。「安心・安全な郷里賀露」を築く為にスローガンとして、まず始めに全町民からアンケートを行いました。千四百六十八世帯に配布して、千二百八十七世帯より回収がありました。回収率八十七%でした。このアンケート調査から数多い課題が見えてきました。一つ一つ大切に、具体化していきたいと考え、自治会役員で防災ワーキンググループを発足させ、現在進行中です。

このアンケート調査から、二割の世帯(二百六十一世帯)に一人では避難が難しい方(避難行動要支援者)が居られることでした。避難行動要支援者に対する対応が急がれます。自治会としても課題が多く

見えてきましたが、一歩一歩着実に前進していかねばならないと思っているところでもあります。

昨年度九月に避難マニュアル研修会を県自主防災活動アドバイザーの前田雅之講師においでいただき勉強し、十月には県外にある一人と防災未来センターへ見学に行き、又防災器具の設置にも力を入れ、防災袋式トイレを購入していざという時使用できるように準備しています。

終わりに昨年度日本遺産の北前船寄港地として賀露港周辺の神社等が選ばれました。文化財等歴史的郷土の重要性を認識し、前進していかねばならないと、強く認識いたしました。

H30.5 賀露町防災アンケート



平成三十年度
全国自治会連合会東京大会

江戸から東京へ改称、東京府開設から百五十年の節目の年、東京都港区のメルパルクホールにて、平成三十年全国自治会連合会東京大会が開催されました。全国の都道府県役員、事務局合わせて千名を超える参加があり鳥取県自治会連合会からも五名が参加しました。

江戸から東京へ改称、東京府開設から百五十年の節目の年、東京都港区のメルパルクホールにて、平成三十年全国自治会連合会東京大会が開催されました。全国の都道府県役員、事務局合わせて千名を超える参加があり鳥取県自治会連合会からも五名が参加しました。



式典
では、東京都
町会連
合会会
長、全
国自治
会連合
会長の
挨拶の
後、開
催地を代表して東京都小池
知事からの歓迎の挨拶を受け
ました。内閣総理大臣のメッ
セージの後、自治会活動の功
労者七十六名が全国自治会
連合会会長表彰を受けられ
ました。鳥取市自治連合会
からは、竹森貞美副会長が栄
えある賞を受賞されました。
活動発表では、全国的な
課題である「町内会・自治
会の加入促進」について、
都内における活動発表があ
り、足立区町会では、暮ら
しの中における町会・自治
会のメリット部分を、わかり
やすく説明したリーフレット
を作成し、ターゲットを絞
り、手渡しで配る取り組み
の発表がありました。
(報告 副会長 土橋周美)

編 集 後 記

平成三十年度は猛暑・豪雨・大地震・逆走台風など未曾有の自然災害に見舞われ、自然界に畏敬の念を抱かされました。一方、政治経済に於いても不祥事が相次ぎ安心・安全・信頼が揺らぎました。もはや過去の経験則や事なかれ主義では立ち行かませぬ。混沌とした時代だからこそ地域に根ざした自治会活動が重要でありコミュニティとネットワークづくりが求められています。今回掲載の各地区の取り組みからもそれがうかがい知れます。

広報委員長 田中雅勝